
会 議 録

件 名：第3回「大隅地域における県立垂水高等学校の在り方に関する地区検討会」

(略称：垂水地区検討会)

日 時：平成23年11月22日（火）午前10時30分～12時00分

場 所：垂水市市民館 大会議室（市民館2階）

出席者：尾脇委員長・肥後副委員長・宮迫委員・北方委員・中川原委員・寺地委員・有馬（勝）委員
今井委員・坂元委員・池田委員・山田委員・有馬（修）委員・田ノ上委員・岩元委員
伊集院委員・橋口委員・八木委員・川井田委員・池之上委員

(オブザーバー) 瀨田垂水高校校長

鹿児島県教育庁高校教育課3名・大隅教育事務所2名

(事務局・その他出席者) 企画課長・課長補佐兼計画調整係長・計画調整係主査2名
教育総務課主幹兼庶務係長

欠席者：堀之内委員・川畑委員

■開会：企画課長

開会に先立ち事務局から連絡事項の伝達。

鹿児島県教育庁高校教育課3名、大隅教育事務所2名お越しいただいていること。

■市長あいさつ：尾脇市長

(要旨)

昨年12月に県教委へ陳情に行き、その事がきっかけとなり新たな視点を加えていただき「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」がスタートし、垂水市は、垂水高校の問題に対して敏感に、真剣に取り組んできてきた。

市長に就任し初めての3月議会時に一般質問の中で、垂水高校に対してのご質問をいただき、その時に申したのが、「担当を決めて、政策を立てて、更にその事に対して予算をつけていく」ということを申し上げた。

この在り方検討委員会というのは政策の最終的な段階に来ていると考えており、本日の会も、最終的な段階に入っており、予算に関しても同時進行している。

先日の日曜日に林之城の400年記念のイベントがあり、講師の先生の話の中で、「垂水の歴史・文化・教育というものの重さ」を改めて感じ、垂水高校の隣接地に文行館が存在したが、文行館は県内2番目に出来たということで、垂水は教育に力をいれてきた町であり、現在はそれが垂水高校であると思いい、そういった歴史的なものも大切であり本日の会を進めていく。

■議事

※企画課長：会則により本会の議長は当地区検討会の長が行うとなっており、これより後の議事は尾脇市長が議長を務める。

○議長：議事次第にそって会を進める。議題の1番目、「垂水高校存続対策事業のこれまでの経過と今後の予定について」事務局より説明をお願いする。

●事務局（野嶋補佐）

- ・配布資料の確認
- ・「垂水高校存続対策事業のこれまでの経過と今後の予定について」説明。
 - ①4月以降の経過について
 - ②前回の「第2回垂水地区検討会」の審議事項の確認
 - ③今後の予定

○議長：ご質問、ご意見等はないか。

○全委員：質問なし。

○議長：議題1は了承する。次に議題の2番目、「9月5日第2回大隅地域検討委員会、10月12日第3回大隅地域検討委員会の内容報告について」事務局より説明をお願いする。

●事務局（野嶋補佐）

- ・「9月5日第2回大隅地域検討委員会、10月12日第3回大隅地域検討委員会の内容報告について」説明。

○議長：ご質問、ご意見等はないか。

○ 委員：「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」からの返答で、検討委員会の意見として、「現在の2学科を維持するのであればもっと地元からの入学者が増えるような具体策を検討して頂きたい」とある。この部分は振興支援計画書を作って提出し、こういう政策をとということで、ある程度具体的なものを出したつもりでいたが、このような返答があったということは、「他に考えなさい」ということなのか、この振興支援計画書が膨大だったので、「分かりやすいものを示してもらいたい」ということなのか、どちらなのかと思っている。また提出しても返ってくるのではないかという思いがあるが、県教委とすり合わせはできているのか。

●事務局（野嶋補佐）：事務局の案としては、皆様にご了承いただいた振興支援計画書は、中高生、保護者の方にアンケートを実施し、NPO等でも話をさせていただきまとめたものである。垂水地区検討会でも審議をしていただき膨大ではあったが、ご了承いただいたものを尊重しながら実践をはかっている。この振興支援計画書で、まだ具体的ではないのではないかという話もあるが、振興支援計画書も来年度の4月に向けて、教育委員会教育総務課において取りまとめ中であり、今度の在り方案の付属資料としては振興支援計画書で具体的に見えている分について記載させていただく方向で、3番目で議論して頂き委員の皆様提案させていただく。ここの確認は寺地委員から質問であるが、県教委と、すり合わせは行っていない。

○ 委員：本日の垂水地区検討会は、これまでやってきたことをふまえより具体に行うことを全体の委員会に対して説明する。そこをこの後、議論するという考えでよろしいか。

●事務局（野嶋補佐）：そのようにご理解いただければと思う。

○議長：それでは他に。

○ 委員：大隅地域検討委員会の意見の中に、「地区検討会でも危機感を、現状では議論できない」とあるが、ここの理由を聞かせていただきたいことと、垂水地区検討会、魅力ある垂水

高校づくり検討会、大隅地域検討委員会と3つの組織があると思うが、この垂水地区検討会以外の2つの組織の構成委員についても把握する必要があると思うが、資料として添付していただきたい。

- 事務局（野嶋補佐）：危機感については、大隅地域検討委員会で説明時間は20分しかなく、垂水市は内容を凝縮しすぎ他の地区検討会が提出していない振興支援計画書を提出し、そちらが協議の中心になった。大隅地域検討委員会の委員の方々は、「垂水高校が無くなることに対して市民の方々はどのような危機感を持っているのか」という話を聞いたかったようである。垂水市とは認識のずれがあり、事務局がそれを飛び越えて話をしたのが逆効果になってしまったのではないかと思っている。大隅地域検討委員会等の名簿については後ほどお渡したい。

- 委員：なぜ高校が必要かという素朴な疑問であるが、高校生が消えると地域から元気がなくなり生活が出来なくなるということだったが、今の垂水高校の現状を見ると、垂水中央中からの受験者が多い。その中には、経済的にも学業の面でも垂水高校にしか進学させられないという保護者もいる。もし無くなるのであれば、その手当を考えなければいけない。子どもを持つ親の意見も入れたほうがよい。垂水高校しか進学できない人もいるわけだから、そこをもう少しアピールすべきではないか。

そして、市立中高一貫について、大隅地域検討委員会の中で県教委の説明では他に中学校が1校いる。それは併設型に限りということが大隅地域検討委員会で話された。連携型であれば中学校は必要ないと話されたが、その説明がなかったから、この垂水地区検討会では無理だということになってしまった。それは県の教育委員会の説明不足であり、どうしても必要であればそういう方法も考えて、何としても垂水に高校を残すと強い気持ちをアピールすべきだと思う。

本日の垂水地区検討会の委員に県教委から併設と連携について説明をお願いしたい。

- 県教委：地区で中高一貫校の話が出たとき、県立の中高一貫校の話をさせていただいた。県立の中高一貫校を設立する場合は、学校教育法で市町村は中学校を設置しなければならないと規定があるので、県立の中高一貫校をつくった場合、それとは別に市立の中学校が必要であると説明をさせていただいた。第3回大隅地域の公立高校の在り方検討委員会では、委員から市立の中高一貫校の事を聞かれたので、私たちが地区で説明した内容と全然違う話を質問された。市立の中高一貫校は、市で他に中学校を設置する必要はないと思う。地区でも併設した一貫校の説明をさせていただいたが、委員は市立の中高一貫校のことを話されたので、そこで私どもが地区で説明した部分と違ってきた。市立の中高一貫校になれば、市の財政負担が出てくるので難しいと思っている。

- 委員：喜界高校は中学校が何校あるか。

- 県教委：3校ある。

- 委員：与論も一緒か。

- 県教委：与論と喜界は、与論高校と与論中学校、喜界高校は第一、第二中学校、早町中と連携型である。先生方が週に何時間か交流授業を行い、部活動の合同練習を行っている。

- 委員：わかりました。

- 議長：それでは他に。

- 委員：垂水は農業の町である。鹿児島市、鹿屋市に通学するにも、今、農家が交通費を払うことはできないと思う。大学に進学しても仕送り10万は簡単にできない。それをどうしたらいいかということである。垂水高校に進学し卒業して、それから海外に行く研修がある。海外に行く費用は、垂水市の市長は出すということである。

大隅に肝属と曾於で4市5町あるが、毎年各市町から1人ずつ9人行けば10年で90人になる。そうすれば地域に後継者が残ることになる。大隅でも、垂水でも一次産業が発展しなければいけない。そのためには、垂水高校に進学し、これからは自分が中心でやらなければいけない時代だと思う。

海外で勉強するという意識すれば、垂水高校で英語を勉強し、デザイン科の生徒も外国に行って農業の加工の勉強をすることができ、生産、運送、販売等も学べる。

垂水は農業だけでなく、水産もある。若い人たちに普通高校から次のステップとして海外に行ってほしい。その費用を垂水は出す準備がある。

農業は、今、何をつくればもうかるかではなく、この地域で何ができるのか。海外研修先が先進的なヨーロッパやアメリカですから、たくさん学ぶこともある。こういうことが必要な時期だと思う。

- 事務局（野嶋補佐）：貴重な意見、新たな可能性のアイデアをいただき、来年4月に向けた具体的な取り組み事項の中の一つ財政的支援、生徒たちの活躍の場を提供するという分野での取り組み事項もありますので、取り入れる方向で検討したいと思う。

- 議長：他にご質問・ご意見等はありませんか。議題2了承する。次に議題の3番目。大隅地域検討会から報告を求められている事項への垂水地区検討会の対応について「垂水高校の在り方（案）について」事務局より報告をお願いいたします。

- 事務局（野嶋補佐）

- ・大隅地域検討会から報告を求められている事項への垂水地区検討会の対応について「垂水高校の在り方（案）について」説明。

- 委員：私達は、今、民間ベースの行動を行っており、行政との連携がさらに必要である。今後は、大隅全体で考えていかないといけない。大隅地域検討会には、垂水からも3名ほどの委員がいるが、大隅地域各地域間で綱引きみたいなものはあるのか。

- 委員（委員の質問に回答）：大隅地域各地域で綱引きはない。大隅地域検討会は3月までに回答を出さなければならない。大隅地域全体で高校の事、地域振興の事を考えていかなければならない。その中での垂水高校の立ち位置が求められる。

- 委員：垂水高校の定足数40名の充足率を上げる努力はすべきである。個人指導の良さをいかしながら、今回盛り込まれた財政支援策に期待したい。

- 委員：垂水高校振興協議会の垂水高校同窓会の委員は何名いるのか。垂水高校振興には、垂水高校同窓会やNPOの力が重要である。

- 議長：垂水高校同窓会からは1名の委員がいる。垂水高校同窓会の会長として、同窓会からも何らかの形で力をいれていく。

- 議長：他にご質問・ご意見等はありませんか。議題3了承する。次に議題の4番目。その他で事務局何かありませんか。

- 委員：先日、テレビで垂水高校生のよさこいを見たが、やる気を感じなかった。今後は、取組、指導をお願いしたい。あと垂水高校への進学率の面で、中央中への呼掛けをお願いしたい。
- 委員：先ほどと同じだが農業の海外研修へは、生徒へ市が補助する。
- 尾脇市長：他にご質問・ご意見等はありませんか。議題4了承する。以上で本日の会を終了させていただきます。

■閉会あいさつ：肥後副委員長

現在、教育総務課において垂水高校振興支援策の10項目程度について主管課を選定し取組もうとしている。垂水高校については、学校のイメージアップが非常に重要である。学校説明会も垂水中央中の先生生徒に12月7日に、もう一度行う。

■閉会：企画課長

以上で第3回大隅地域における県立垂水高校の在り方に関する地区検討会を閉会する。